

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市民連中央病院	階数	地上4F
建設地	京都市右京区太秦土本町2番1他11筆	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	850人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年2月20日
敷地面積	19,317㎡	作成者	株式会社 内藤建築事務所 神先誠司
建築面積	7,928㎡	確認日	2018年2月26日
延床面積	23,928㎡	確認者	株式会社 内藤建築事務所 神先誠司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 前面道路から距離を離れた位置を外壁とし、道路への圧迫感の軽減に努めた。敷地周囲には緑を配置し、周辺環境の潤いを与える計画としている。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 複層ガラス、病室間の遮音対応（間仕切壁内にグラスウール充填）など、室内音環境の向上に配慮を行っている。また、複層ガラスをほぼ全面に採用し、熱貫流の低い計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 目的別エレベーターを複数台配置し、患者・見舞客、スタッフそれぞれが快適に利用できるように計画した。その他、排水系統の区分や2回線受電、非常用発電設備など、災害時にも速やかに診療を再開できる計画としている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地外周部の植栽や、ランニングコースの設置など、周辺住民の健康増進に寄与できる計画としている。また、屋上に修景装置を設置し、周辺環境との調和にも配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明をほぼ全面的に採用しているほか、太陽光発電パネルを設置し、電力負荷軽減を図る計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> リサイクル材料、解体時に分別が容易である材料を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 高効率機器の採用など、地球温暖化への配慮を行っている。職員用も含めて、十分な台数の駐車場及び自転車駐車場を確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される